

## 宇治市第9次行政改革大綱(答申案) に対するパブリックコメント結果

### 1. 意見募集期間

令和7年12月19日(金)～令和8年1月18日(日)

### 2. 意見提出者数

提出方法	人数
電子メール	3人
webフォーム	2人
計	5人

### 3. 意見数

関連項目	件数
施策体系について	2件
基本施策1 地域DXの推進による行政サービスの向上について	2件
基本施策2 適正かつ健全な行財政運営の確立について	3件
基本施策3 連携と協働によるまちづくりの推進について	1件
その他の記載等について	4件
計	12件

## 第9次行政改革大綱(答申案)に対するパブリックコメント結果

No.	意見等の概要	宇治市の考え方	修正
1	<p>P 2 (1) 人口減少・少子高齢化の進行 図のタイトル【人口推移と将来人口の推計】を【人口推移、将来人口及び年齢別構成比の推計】と修正する。</p>	<p>ご意見のとおり、より分かりやすくするため、「人口推移、将来人口及び年齢別構成比の推計」に修正します。</p>	有
2	<p>P 4 (4) デジタル技術の飛躍的進展 P 1 7 用語解説一覧 「ウェルビーイング」と記載されているが、巻末に用語の解説を追加するとともに、表記方法(カタカナ、英語など)を市役所として出来るだけ統一することは可能か。</p>	<p>ご意見のとおり、巻末の用語解説一覧に「ウェルビーイング」を追加します。また、「ウェルビーイング」の表記については、国や学術的分野でも複数の表記があり、統一された書き方が定まってない状況の中で、本市の各計画はそれぞれの根拠資料や専門的な知見を踏まえて策定しているため、計画によって表記が異なっておりますことから、現時点で表記の統一は難しいと考えております。</p>	有
3	<p>P 6 【財政見通し(令和8年度～令和11年度)】 P 6の財政見通しの表において、歳出の投資的経費の額が令和7年度の140億円から令和8年度以降は56～81億円と大きく減少しているが、どの施策が影響しているのか追記する。</p>	<p>歳出の投資的経費について、令和7年度は「宇治西小倉学園」や「給食センター」の整備があり、予算が大きくなっております。ご意見を踏まえ、どの事業が影響して令和7年度の投資的経費が大きくなっているかを追記します。</p>	有
4	<p>P 4 (5) 公共施設の状況 最終段落で、「公共施設の延床面積を20%削減」と記載されている。その根拠としている「宇治市公共施設等総合管理計画」では、策定当時(平成29年)の人口減少率である20%を用いるとされているが、最近の人口推計ではどう変化しているのか。</p>	<p>宇治市の人口は「宇治市公共施設等総合管理計画」策定時における人口推計よりも速いペースで減少しており、当時の人口減少率よりも高くなることが予想されます。</p>	

No.	意見等の概要	宇治市の考え方	修正
5	<p>P10 1. 施策体系 「第8次行政改革で課題であった取組項目における指標の適切性や評価の客観性について、的確な評価ができるよう、具体的かつ明確な指標の設定」と記載されているので、P10の目標値について、例えばP11の【具体的な取組】にあげられている「行かない・迷わない窓口等」や「書かない窓口等」の実施数を評価項目にすることはできないか。</p>	<p>P10に記載している目標は第9次行政改革全体の目指すべき指標として、3つの基本施策に対して、行政サービスの市民満足度、財源確保額、市民協働活動への参加者割合の3つを設定しております。</p> <p>P11以降に記載している各具体的な取組については、別途策定する実施計画において、評価を行いますので、その目標について、ご意見を踏まえ、具体的かつ明確な指標の設定となるよう数値化等に努めてまいります。</p>	
6	<p>P10 1. 施策体系 「目標1 行政サービスの市民満足度75%」とされているが、満足度の評価も全体的な傾向は把握できるものと考えられるが、具体性に欠けることが危惧される。</p> <p>P11「具体的な方策1 行政サービスのDX推進」の具体的な取組に記載されている「行かない・迷わない窓口等」、「書かない窓口等」及び「対応業務の品質向上に向けたデジタル技術の活用」など、実施された新たな件数を目標として評価することは可能か。</p>		
7	<p>P11～12 基本施策1 地域DXの推進による行政サービスの向上 具体的な方策2 行政事務のDX推進</p> <p>生成AIやRPAの積極的な導入を行うとのことだが、AI任せで行政サービスが機械的なものにならないよう、しっかりと使い分けをしてほしい。福祉やまちづくりは、AIでは出来ない。人が現場を見て判断し、検討することが不可欠。</p>	<p>生成AIやRPAの活用につきましては、行政事務の効率化を行うことによって、人的資源を生み出し、それによって、より質の高いサービスの提供を行うことを目指しております。</p> <p>ご意見については、DXの推進にあたっての参考にさせていただきます。</p>	
8	<p>P11～12 基本施策1 地域DXの推進による行政サービスの向上 具体的な方策3 地域社会におけるDX基盤の整備と推進</p> <p>「地域DXの推進による行政サービスの向上」を取組の目玉に掲げているが、デジタルに対応できない高齢者が取り残される恐れがある。しっかりと対策を検討してほしい。</p>	<p>あらゆる市民がデジタル化によるメリットを享受できるようにするため、デジタルバйд対策を行い、デジタル技術に不安を抱える方への継続的な支援を行ってまいります。</p>	
9	<p>P13～14 基本施策2 適正かつ健全な行財政運営の確立 具体的な方策2 新たな財源の確保</p> <p>この物価高騰している中で、使用料を引き上げるつもりなのか。</p>	<p>各施設の使用料については、受益と負担の公平性の観点から負担水準等を検討する必要があると考えます。使用料等の見直しにあたっては、施設の利用状況や維持管理経費を見ながら、適切な使用料等の設定を検討してまいります。</p>	

No.	意見等の概要	宇治市の考え方	修正
10	<p>P13～14 基本施策2 適正かつ健全な行財政運営の確立            具体的な方策1 事務事業の見直し            観光・イベント事業の厳格な評価について            宇治川の鵜飼振興や一過性のライトアップ等の観光イベントについて、投入コストに対する「宿泊客数・市内消費額」の波及効果をデータで検証してほしい。効果が不透明な事業は聖域なく廃止・縮小し、市民の安全を守る防犯・教育予算に充当すべき。</p>	<p>宇治川の鵜飼やライトアップ等の観光イベントについては、鵜飼の乗船者数やイベントの入込客数など、事業の実施状況を把握する指標を用いて、事業効果の確認を行っております。            観光施策による経済効果については、来訪者の行動や消費が多様であり、個別事業ごとに宿泊や消費との直接的な因果関係を明確に示すことは難しい側面がありますが、「宇治川の鵜飼」、「京の七夕in UJi」については、観光客の滞在時間を延ばす役割を果たしているものと考えております。            今後も、事業の目的や実施状況を踏まえながら、既存のデータやこれまでの取組を総合的に勘案し、適切な事業運営に努めてまいります。            ご意見については、本市のまちづくりを進めるにあたっての参考にさせていただきます。</p>	
11	<p>P13～14 基本施策2 適正かつ健全な行財政運営の確立            具体的な方策1 事務事業の見直し            固定化した補助金の新陳代謝について            市民活動支援補助金等が、長年同じ団体に「前年踏襲」で支払われ、既得権益化していないか厳しく精査してほしい。活動内容が形骸化しているものは削減し、DX推進や次世代の安全対策（子供のネット安全教育等）へ予算を振り替えるべき。</p>	<p>本市では、補助金等の交付にかかる基本的な事項を「宇治市補助金等交付規則」として定めており、同規則に基づき、補助金交付の適否を審査した上で交付決定を行っております。また、事業終了後には補助事業の成果が補助金事業の目的に適合しているかを確認するなど、各種補助金等にかかる予算の適正な執行に努めているところです。            ご意見については、本市のまちづくりを進めるにあたっての参考にさせていただきます。</p>	
12	<p>P15～16 基本施策3 連携と協働によるまちづくりの推進            費用対効果の可視化について            第8次までの「連携すること自体が目的」となった協働を改め、各事業が市民利益にどう直結したかを数値で公開することを求める。</p>	<p>ご意見のとおり、行政改革での連携・協働の取組がどの程度、市民サービスの向上に結び付いたかは重要ですが、様々な捉え方があり、具体的な数値としてお示しすることは難しいと考えます。            しかし、行政改革の取組については、別途策定する実施計画において、評価し、実績をお示しする中で、できる限り分かりやすい表記に努めてまいります。</p>	